

一般社団法人日本地質学会 2011 年度第 3 回理事会議事録

日 時：2011 年 12 月 3 日（土） 13：00－17：00

会 場：総評会館 402 会議室（千代田区神田駿河台 3-2-11）

出席役員 理事(26 名)：宮下純夫会長 久田健一郎副会長 安藤寿男 石渡 明 伊藤谷生
井龍康文 上砂正一 永広昌之 北原哲郎 斎藤 眞 坂口有人 佐々木和彦 柴 正博
高木秀雄 高橋正樹 竹内 誠 田村嘉之 内藤一樹 中井 均 平田大二（14 時半退出）
福富幹男 藤林紀枝 藤本光一郎 星 博幸 保柳康一 脇田浩二

欠席役員 理事(23 名)：渡部芳夫副会長 天野一男 太田泰弘 奥平敬元 小山内康人
狩野彰宏 小嶋 智 紺谷吉弘 榊原正幸 芝川明義 竹下 徹 田近 淳 西 弘嗣
楡井 久 松岡 篤 松田博貴 松原典孝 向山 栄 村田明広 矢島道子 山口耕生
山田泰広 林 愛明

監事(2 名)：青野道夫 山本正司

その他出席者 オブザーバー：山本高司（関東支部幹事長） 事務局：橋辺

- * 成立要件：理事総数 49 名の過半数 25 名，本日の出席者 26 名 で本理事会は成立。
- * 議決：出席者の過半数 14 名
- * 書記として，脇田浩二理事，北原哲郎理事を選出した。

報告事項

1. 執行理事会報告

・藤本常務理事より，10 月 8 日開催の 2011 年度第 4 回執行理事会および 11 月 12 日開催の第 5 回執行理事会に関する報告と説明がなされた。その他，支部・専門部会の SNS を立ち上げたので活用されたい。

2. 個別の報告

1) 行事委員会報告（星）

2012 年学術大会（大阪大会）および 2013 年学術大会（仙台大会）についての準備状況報告があった。

2) 地質学雑誌編集委員会報告（小嶋：藤本代理説明）

非会員論文掲載に関する報告とお詫びについて説明があった。再発防止策として「筆頭者が会員であること」をチェック項目として追加した。

3) アイランドアーク編集状況報告（井龍）

投稿が低調であり，今年度は契約している総ページ数 825 ページのうち，558 ページに留まった。来年度も 825 ページとする。積極的な投稿をお願いしたい。

カラー印刷が目的のピクトリアルで図表が白黒で印刷されたものがあり，出版社に厳重注意を行った。

4) ジオパーク支援委員会報告（高木）

HPに掲載のポスターは随時新しい情報に入れ替えている。ジオパークネットワークのメンバーは着実に増えつつある。今年は室戸が世界ジオパークとなり、現在、隠岐が申請審査中である。また、日本ジオパークとしていわて三陸や三笠市、千葉市で新規の動きがある。

5) 地質災害委員会報告【報告資料④-4】（斎藤）

・台風12号による地盤災害調査合同調査団（地盤工学会、地質学会、応用地質学会、関西および中部の各地質調査業協会）による報告書が完成。

・上記合同調査に参加した会員の野外調査費として4-5万円ほど支出予定。

・野外調査の安全指針については9月の第2回理事会で承認され、指摘があった箇所を修正。しかし現状では参加者の保険などの取り扱い以外、経費負担などについてのルールが決まっておらず、早急にルールを整備する必要がある。

6) その他

① 「行動規範」については前回9月の理事会で承認されているが、会員に向けての前文を付加し、また、一部文言の整理、修正をした。間もなく発行される会員名簿にも倫理綱領とともに掲載することが藤本常務理事から報告された。

② 「寄付金等取扱規則」については前回9月の理事会で承認されているが、指摘があった箇所を修正（3条を3条・4条に分けて記載）したことが向山理事に代わり、藤本常務理事から報告された。

③ 上砂理事より、放射能測定・調査研究委員会の設立については前回9月の理事会で承認されているが、指摘を受けた点も含め、趣意書と規則について執行理事会との間で検討し、修正したことが説明された。来年2月福島においてシンポジウムを予定している。

④ 会員の応募による復旧復興に関する補助事業については今年度は8件採択したが、財政面を確保しながら来年度も継続していきたい。今年度の成果については、大阪大会での発表を義務付けてはいるが、惑星連合の際にも何らかの形で紹介したいとのことが、復興事業検討WGの高木理事より報告された。また、新聞等で紹介された事業についても報告されたのを受けて、震災復興事業全体を地質学会としてプレスリリースすべきという意見も出された。

3. 理事からの報告事項

・地学オリンピック支援委員会（久田理事）

地学オリンピックの来年度の選抜に向けては924名の参加申し込みがあった。今年のイタリア大会において日本は金1、銀2、銅1獲得（26ヶ国、104名参加）。近年東南アジア諸国が台頭してきており、今回はタイにメダル数で抜かれた。

・環境地質部会(田村理事)

6月8日に液状化に関するシンポジウムを浦安にて共催した。また、12月18日には潮来市主催、部会共催で「利根川中・下流域の液状化・流動化・地波現象」を開催予定であることが報告された。

4. その他

・各賞選考に関する問題点については藤本常務理事から、これまでの申し送り事項は概ね検討済みであるが、候補の推薦数が非常に少ない、うまい方策があれば意見をいただきたいとの報告があった。今年度は12月26日必着で締め切られるが、多くの推薦を出すよう、理事各位にも呼び掛けられた。

審議事項

1. 定款の修正について

藤本常務理事より、定款第 33 条の理事、監事の選任については総会決議を必要としていたが、これを、総会への報告事項に改正とする提案について説明があった。佐々木理事より改正理由の文章のうち、文末の「万が一、・・・」の 2 行は不要ではないかとの意見があり、文末 2 行を削除し、賛成多数で改正案が承認された。

またあわせて、運営規則のいくつかの条文の文言を微修正(現組織等に合致したもの)する提案があり、これを承認した。

2. 技術者教育委員会の設立について

小嶋理事ほかより技術者継続教育委員会ならびに JABEE 委員会を廃止し、技術者教育委員会を新設することが提案され、代理で藤本常務理事より提案理由の説明があった。福富理事より、委員会の名称として技術者教育という言葉は他学会の CPD プログラムに用いられており、混同する可能性があるため、【地質】技術者教育委員会としてはどうかという提案があった。名称を「地質技術者教育委員会」とすることにより賛成多数で承認された。

3. 学術大会の回り持ちについて

星理事(行事委員会)より、年会の支部回り持ちと諸般の事情で回り持ちに割り込んで開催したい大学等がある場合の取り決め「年会の回り持ちに関する申し合わせ」が提案された。なお、この申し合わせ(案)について、予め各支部に対し意見聴取を行ったところ、東北支部からは、割り込む場合の取り決めについて意見が出され、東北支部選出理事の永広理事より説明があった。割り込む際のある程度の事情は考慮する必要があるものの、交代する相手(支部)がいることでもあり、割り込み後のローテーションと割り込む際の手続き(案)が、議論された。

原案では、割り込み希望がある場合には、3)開催希望年の 4 年前の 8 月末日までに連絡することとなっているが、支部毎に総会開催月が異なることもあり、3 月にしてほしいとの意見が出た。

また、回り持ちローテーションの考え方を記載した申し合わせ(案)の文末 5 行については削除し、内容について再度整理したうえで次回理事会にて審議することとなった。

4. 2012 年度の事業計画基本方針について

宮下会長から、2012 年度事業計画骨子の説明があった。骨子については以下のような意見があった。

指摘のあった事項について検討、修正を行い、次回理事会に再提出することとなった。

- ・ 1. 1)の「災害に関する知識」ではわかりにくいとため、「災害に関する地質学的知識」としてはどうか。
- ・ 1. 3)の防災教育は工学的・社会的要素も入っているため、自然災害に関する地学教育としてはどうか。
- ・ 4. 新指導要領に沿って地学(4 単位)と地学基礎(2 単位)が実施されることになるが、ほとんどが地学基礎を採用することになると思われる。ただ、地学基礎だけでは不十分であり、自然災害に関する取り組みもしにくいと考えられる。新指導要領は、震災前にまとめられたものであり、東日本震災を受け、見直しもあり得るのではないかと様々な提言をすべきではないか?
- ・ 次の指導要領の検討が 5~6 年後から始まるので、次の改定に向けて今から取り組む必要がある。

5. 2012 年大阪大会・2013 年仙台大会の開催基本方針および行事内容について

<2012 年大阪大会関連>

近畿支部として、上町断層と都市地下構造についてのシンポジウムを実施したいが、その他のシンポジウムについては支部では対応しきれないため、学会主導でお願いしたいとの要望があった。

これに対し下記のような意見があった。

- ・東海・東南海・南海 3 連動といった海溝型地震のシンポジウムが必要ではないか
- ・台風 12 号災害を含めた自然災害のシンポジウムを実施してはどうか
- ・2012 年度事業計画とリンクさせるべきではないか
- ・学会の事業をアウトリーチする取り組み（例えば震災復興関連の取り組み）が必要

<2013 年仙台大会関連>

12 月 17 日に支部総会を実施予定。テーマ等については未定。主に巡検についての相談となる。鉱物科学会との共催はない見込みである。

これに対し下記のような意見があった。

- ・水戸大会の共催についてはスケールメリットがあった。アンケート結果でも好意的であった。
- ・いわて三陸ジオパークや「宮沢賢治と地質学」といったシンポジウムが受けるのではないか。
- ・東北は地熱発電が盛んでもあり、再生可能エネルギーについてのシンポジウムはどうか。

6. 名誉会員推薦委員会委員の選出

理事会推薦委員 1 名として永広理事の推薦があり、以下の階層別ならびに職責委員とともに承認された。なお、委員長は久田副会長が務める。

- ・階層別委員 大学；佐野弘好（九州大学）,官公庁；栗本史雄（産総研），
小中高；田中義洋（学芸大学附属高，会社；須藤 宏（応用地質株）
- ・職責委員：支部長 竹下 徹，竹谷陽二郎，伊藤谷生，原山 智，宮田隆夫，臼井 朗,宮本隆実

7. その他

1) 来年度の総会開催日について

2012 年度の総会は、5 月 19 日(土惑星連合前日)に開催することを承認した。開催時間は 14:30 の予定とし、総会開始前にフォトコンテストの表彰式を行う（13:30～）。

2) 理事会推薦監事候補者について

社外監事候補者として、現監事の山本正司氏を決定した。山本氏には内諾を得ている。

3) 地質調査研修事業について報サービス（株）の解散に伴い、同社から、産総研の認定研修制度を利用した地質調査研修事業について地質学会が継承できないかという検討依頼を受けた。講師 1 人に対し受講者 3 名を上限とし、千葉の東大演習林などを用いて実施してきた（最大受講者数 6 名程度）。顧客を引き継ぐ形で、また、新たに地質学会の事業として、関東支部の協力のもとモデルケースとして実施することが説明された。

これに対し下記のような意見が出された。意見については今後検討していくこととし、モデルケースとして事業自体を引き継ぐことが承認された。

- ・会員向けのサービスとして位置付けてはどうか。
- ・単に地学情報サービス（株）の事業をそのまま引き継ぐのではなく、地質学会としてのビジョンを持って実施してほしい。関東支部の具体的検討は、その方向で進んでいる。
- ・地質学会が与えるなんらかの研修認定の制度が必要である。
- ・大学の授業とリンクして、進論履修者には審査のうえ単位を与えることとしてはどうか。

以上